

# 腕試しテスト 《問題》

SQL 応用



## 腕試しテスト《問題》

### Lesson 1》

---

CASE 式の説明で、正しいものを 1 つ選択してください。

- 【A】 DECODE 関数などに比べて、非等価演算子などを使用した複雑な分岐条件を設定できる。
- 【B】 DECODE 関数などに比べてソースコードが長く、コードが読みづらい。
- 【C】 CASE 式は「式」であるため、SELECT の後の選択リストにのみ指定できる。
- 【D】 CASE 式の分岐条件に副問い合わせを含めることはできない。

### Lesson 2》

---

NO 列が 1 だったら「YES」、それ以外は NULL を返す CASE 式の記述として、一番指示が明確なものを選択してください。

- 【A】 CASE WHEN no = 1 THEN 'YES'  
END
- 【B】 CASE WHEN no THEN 'YES'  
ELSE NULL  
END
- 【C】 CASE WHEN no = 1 THEN 'YES'  
ELSE NULL  
END
- 【D】 CASE WHEN no = 1 THEN 'YES'  
ELSE NULL

### Lesson 3》

---

条件分岐関数の説明で、誤っているものを 1 つ選択してください。

- 【A】 COALESCE 関数は列順に NULL の存在を確認できる。
- 【B】 COALESCE 関数は NVL 関数と同じように、NULL を他の値に置き換えることができる。
- 【C】 NULLIF 関数は、NULL を他の値に置き換えることができる関数である。
- 【D】 NULLIF 関数を使用すると、ゼロ除算を回避できる

## Lesson4》

---

MERGE 文の説明で、正しいものをすべて選択してください。

- 【A】 ON 句で、比較する双方の表の列を指定する。
- 【B】 UPDATE 対象がターゲット表、INSERT の対象となるのがソース表である。
- 【C】 MERGE INTO 句でビューを指定することはできない。
- 【D】 ターゲット表に対する DML 文では、表名を明示的に指定しない。

## Lesson5》

---

集計処理に関する説明で、正しいものをすべて選択してください。

- 【A】 GROUP BY 句に CASE 式を組み合わせると、任意のグループに分けて集計処理が行える。
- 【B】 GROUP BY 句で列の別名を指定できる。
- 【C】 異なる条件の集計処理を SQL1 文で行うことはできない。
- 【D】 HAVING 句を使用すると、GROUP BY 句でグループ化したデータの性質を調査できる。

## Lesson6》

---

分析関数の説明で、誤っているものを1つ選択してください。

- 【A】 分析関数はもともとの行数を保ったままグループに対する分析処理を行う。
- 【B】 PARTITION BY 句を省略した場合、検索結果全体が1つのグループとして扱われる。
- 【C】 グループ関数を分析関数として使用する場合、関数名の引数には列名を指定せず()のまま指定する。
- 【D】 DENSE\_RANK 関数を使用する場合、同率順位があっても次の順位を飛ばさない。

## Lesson7》

---

相関副問い合わせの説明で、誤っているものを1つ選択してください。

- 【A】 相関副問い合わせを実行するには、副問い合わせ内で主問い合わせを参照する。
- 【B】 相関副問い合わせはパフォーマンスが問題になるため、通常は使用しない。
- 【C】 相関副問い合わせの処理を分析関数で代替できる場合は、分析関数を使用した方がパフォーマンスが良い。
- 【D】 相関副問い合わせを実行する際は、副問い合わせと主問い合わせは異なる表から検索する。

## Lesson 8》

---

EXISTS 条件の説明で、誤っているものを 1 つ選択してください。

- 【A】 EXISTS 条件に続く副問い合わせの選択リストでは、どのような列を指定してもエラーにはならない。
- 【B】 EXISTS 条件は値の存在有無のみの確認のため、主問い合わせ側の WHERE 句には比較対象列は指定しない。
- 【C】 EXISTS 条件使用時は、内部的に副問い合わせの結果すべてと値の比較を行っている。
- 【D】 EXISTS 条件と CASE 式を組み合わせることで、値の存在有無で処理を分岐できる。

## Lesson 9》

---

データベースから NULL を排除する方法で、誤っているものを 1 つ選択してください。

- 【A】 列に NOT NULL 制約を定義する。
- 【B】 列にデフォルト値を定義する。
- 【C】 列内の NULL をダミーデータに置き換える。
- 【D】 NULLIF 関数で NULL を他の値に置き換える。

## Lesson 10》

---

NULL の扱いの説明で、正しいものをすべて選択してください。

- 【A】 NOT EXISTS 条件に続く副問い合わせの結果に NULL が含まれていると正しい結果が表示されない。
- 【B】 ALL 述語に続く副問い合わせの結果に NULL が含まれていると正しい結果が表示されない。
- 【C】 ソートを行うと、NULL は一番小さな値として扱われる。
- 【D】 外部結合を行うと NULL が発生するため、COALESCE 関数などで NULL を他の値に置き換えることを検討する。